

兵庫県薬剤師会 薬学教育部
令和2年10月作成

「これからの薬学教育」

～改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新薬学実習～

一般社団法人 兵庫県薬剤師会
副会長 三宅圭一

1. 薬局はどう進化するのか？
2. 薬学教育がどう変わるのか？
3. 概略評価はどのようにするのか？
4. 第三者評価は必要か？

第52回日薬学術大会

分科会20

2019年10月14日(月・祝)9:10～11:40

海峡メッセ10階 国際会議場

「これからの薬学教育」

～改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新薬学実習～

座 長

日本薬剤師会

吉田 カ久

日本薬剤師会

三宅 圭一

基 調 講 演

厚生労働省

安川 孝志

シンポジスト

文部科学省

福島 哉史

日本薬剤師会

永田 泰造

日本病院薬剤師会

石井 伊都子

大阪大学

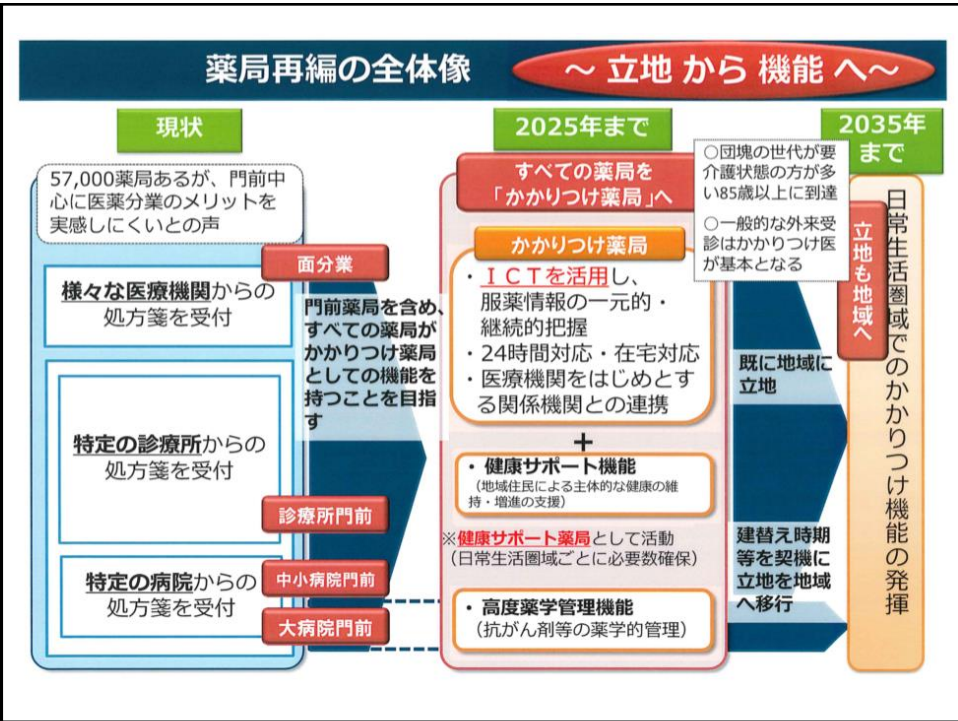
平田 収正

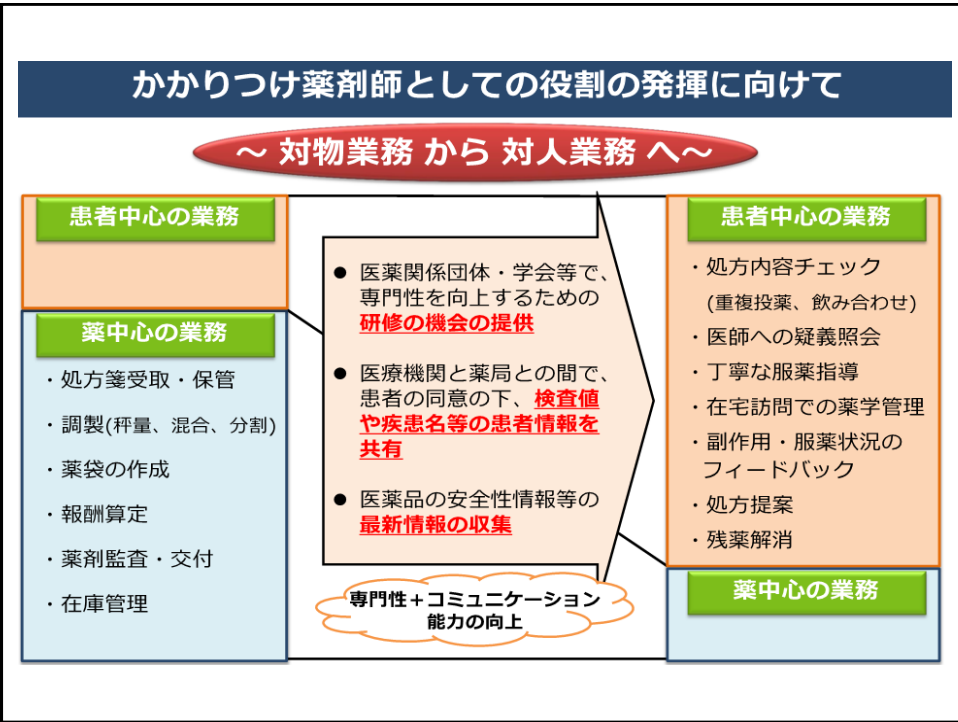


3

1. 薬局はどう進化するのか？

4





**A I には替わられない業務
= 対人業務**

現場を変えられるのか？

教育を変えられるのか？

国試は答えが1つ、現場の答えは1つではない。

1. 薬局はどう進化するのか？
2. 薬学教育がどう変わるのか？

9

ガイドラインに沿った実務実習

これまでの実務実習と現在の実務実習

これまで

プロセス基盤型(SBOで評価)

- 毎日どのSBOを実施するのか計画し、そのSBOを実際にどの程度学習したか評価し、すべてのSBOsを修得できたか確認する。

現在

学習成果基盤型(OBE)

- 目標とする能力のどの段階まで達しているのか実習生・指導者・教員等が総合的に評価しながら、目標の合格域まで到達するにはあと何が必要かを考える。

目標をパフォーマンスで
設定

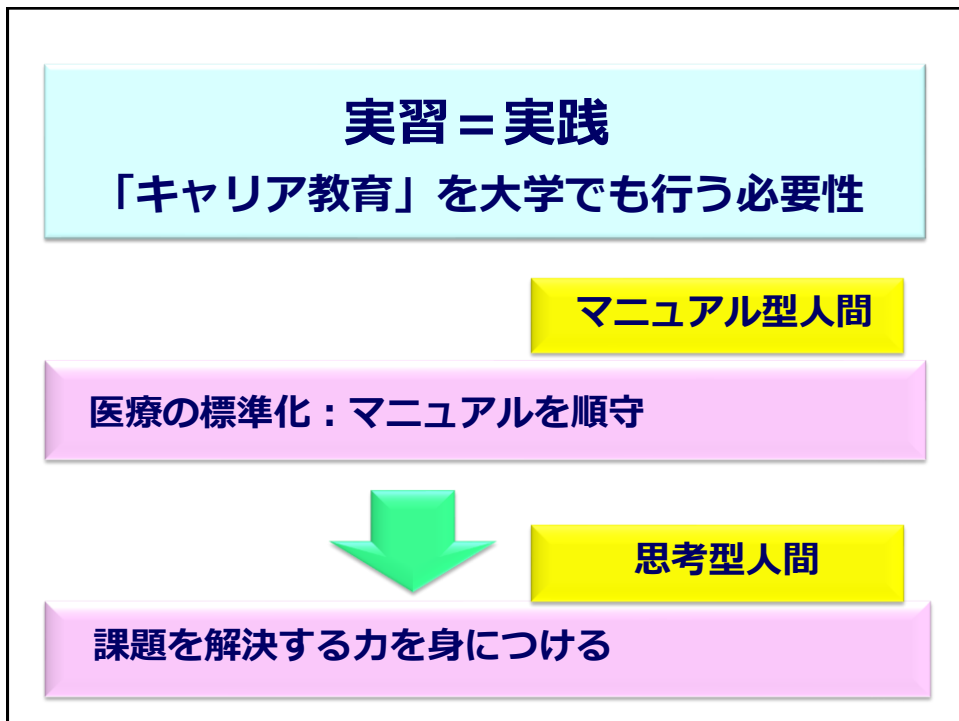
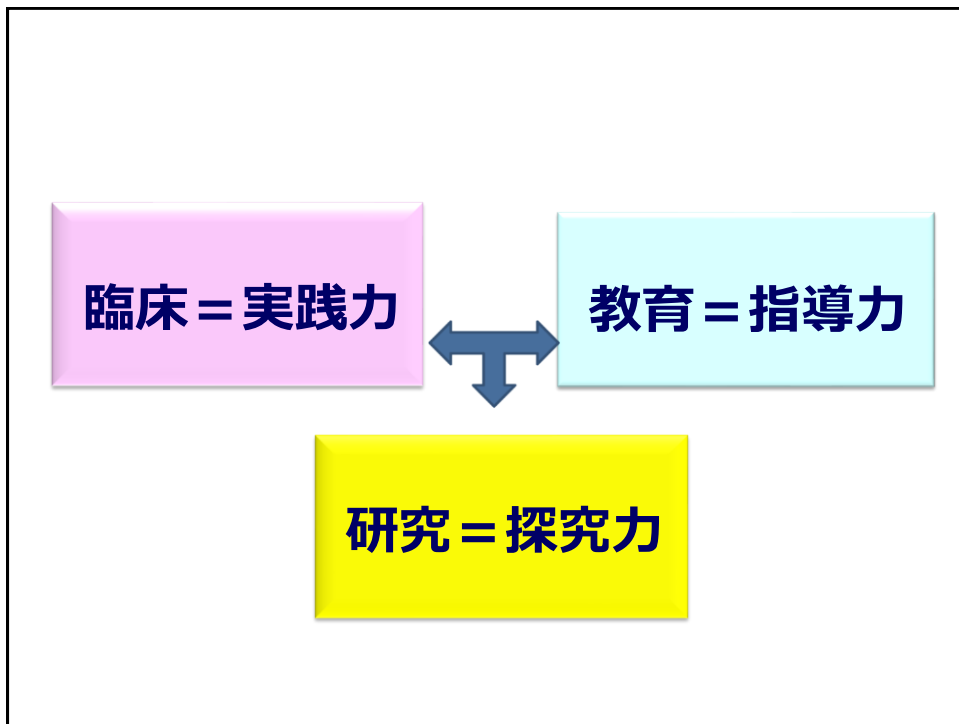
11

実務実習の在り方・目標

薬剤師として求められる基本的な資質

- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力

12



考える人材を育成

本：「A I vs教科書が読めない子供たち」

自ら考え創造する力

問題発見力

解く力

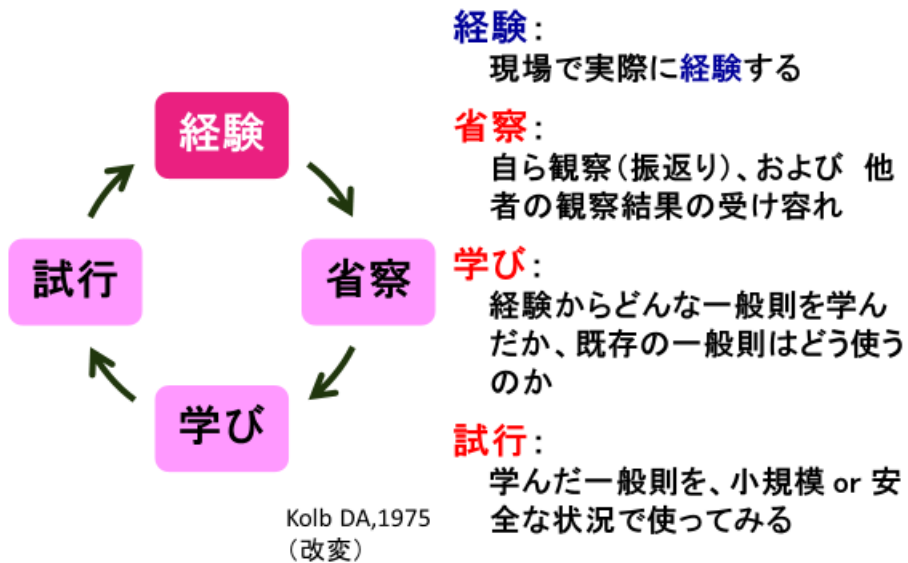
諦めない力

実務実習の在り方・目標

参加・体験型の臨床実習の充実

- 実務実習では、**実践的な臨床対応能力を身につける参加・体験型学習**を行う。
- 臨床現場で幅広く事例や症例を体験して、薬剤師業務の意義・役割を理解する。

経験学習のサイクル



実務実習の在り方・目標

病院・薬局が連携した一貫性のある実習

- 大学が主導的役割を果たし、病院・薬局間で重複する目標の指導を分担し、一貫性のある学修効果の高い実習を行う。

1. 薬局はどう進化するのか？
2. 薬学教育がどう変わるのか？
3. 概略評価はどのようにするのか？

19

改訂モデル・コアカリキュラム(F:薬学臨床)の構成とその評価

改訂モデル・コアカリキュラム F:薬学臨床

- (1) 薬学臨床の基礎
- (2) 処方せんに基づく調剤
- (3) 薬物療法の実践

【患者情報の把握】【医薬品情報の収集と活用】

【処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

【処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

概略評価
(ルーブリック
を意識)

- (4) チーム医療への参画

【医療機関におけるチーム医療】【地域におけるチーム医療】

- (5) 地域の保健・医療・福祉への参画

【在宅医療・介護への参画】【地域保健への参画】

【プライマリケア、セルフメディケーションの実践】

【災害時医療と薬剤師】

実務実習記録
による評価
(ポートフォリオ
を意識)

20

概略評価
実際、どのようにするのか？

21

少年野球のバッティング

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
野球の バッティ ング					

22

薬局実務実習(服薬指導)

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
服薬指導	服薬指導を一人で実施し、患者さんの安心と安全に寄与	一人で実施する	一人でやってみるが時々指導をもらう	指導を受けながら、やってみる	やってみる

23

評価の基本

責任ある主観で評価する

客観性を高めるために測定者を増やす

正確性を高めるために明確な判定基準を示す

参加・体験型の臨床実習の充実

概略評価を行う領域について (リーブリック)



- A 保険調剤ができる
 《医薬品の調製》
- B 保険調剤ができる
 《処方監査・医療安全》
- C 保険調剤ができる
 《服薬指導》
- D 処方設計と薬物療法
 《薬物療法の実践》

実務実習記録評価を行う領域について (ポートフォリオ)

- E 在宅医療を実践する
- F セルフメディケーション支援を実践する
- G 地域で活躍する薬剤師

25

1. 薬局はどう進化するのか？
2. 薬学教育がどう変わるのか？
3. 概略評価はどのようにするのか？
4. 第三者評価は必要か？

26

3つのポリシー

ディプロマポリシー：卒業時の方針

カリキュラムポリシー：教育課程の方針

アドミッションポリシー：入学時の方針

※ 3つのポリシーには一貫性が必要！

第三者評価

大学だけが評価を受けるのではない
双方向の評価が必要

第三者評価

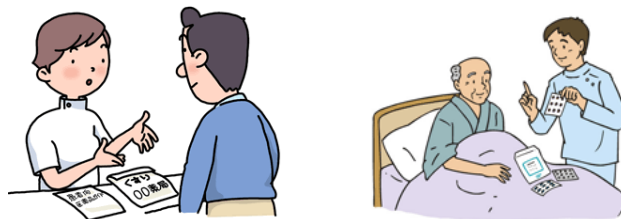
まずは、自己評価から

参加型実習

毎日、患者さんに会うこと



リフレクションすることが大切

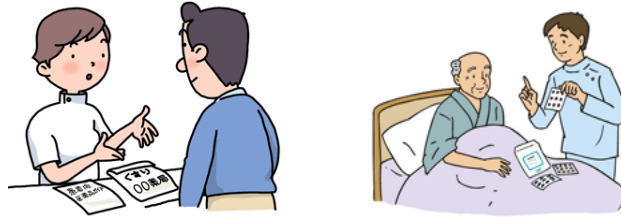


参加型実習

毎回、**学生さん**に会うこと



リフレクションすることが大切



31

“共に学び、共に育つ”

どうぞ、宜しくお願いします



32